

事例紹介

神奈川県川崎市立 川崎高等学校附属中学校

川崎市立川崎高等学校附属中学校では、学校の特色の1つとして、朝の会と帰りの会で毎日eラーニング学習を行っています。生徒が1人1台ずつタブレットPCをもつ環境を活かした実践の様子をご紹介します。



運用 学習習慣を育む、朝夕15分間のeラーニング！

平成26（2014）年4月に設立された川崎市立川崎高等学校附属中学校では、この先の社会で活躍できる人材の育成のため、「体験・研究」「ICT活用」「英語・国際理解」を3つの柱に据え、特色ある教育を行っています。

その「ICT活用」の取り組みの1つに、1人1台のタブレットPCを活かした学習指導があります。附属中では**入学時から全生徒がタブレットPCを持ち、協働学習や課題配布・宿題などに日常的に活用しています。**

そして、**毎日朝の会と帰りの会の前の15分間を「eラーニングの時間」として、全校で一斉に学習に取り組み、学習の習慣化を図っています。**

附属中の1日の流れ

eラーニング

朝の会

授業

eラーニング

帰りの会

実践① ドリルで確認！



【学習履歴型ドリル】

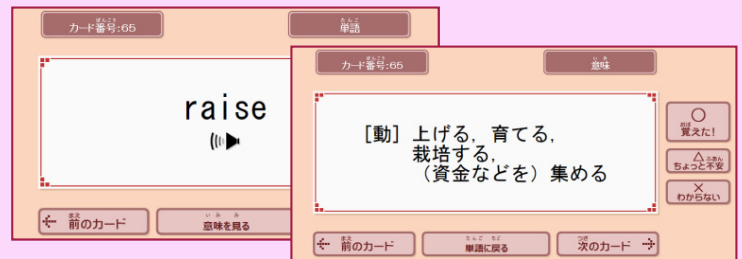
7時間目の授業が終わるとすぐに生徒は自分のタブレットPCを取り出し、eラーニング学習に15分間取り組みます。

学習する教材は、PCに入っているeラーニング教材の中から自分で選ぶルールです。多くの生徒は「ラインズeライブラリ」の学習履歴型ドリルで、既習事項の確認を行っています。

実践② いろいろカード帳でさらに定着！

1つのドリル教材を終えた後に、デジタル単語帳（いろいろカード帳）でさらに定着を図ろうとする生徒の姿も見られました。集中して黙々と取り組む様子からも、15分という短い時間を少しでも有効に使おうとする生徒の意欲が窺えます。

この取り組みを約2年間続けたことで、学習習慣が根付き、今では休み時間や自習時間にも自らドリル学習を行う生徒もいるそうです。



【いろいろカード帳】

※ 都道府県や化学式など、5,500枚以上のカードを収録し、英語のカードには音声もついています。

教頭 植村 裕之 先生のお話

～基礎学力の充実、学習の習慣化のためにできること～



本校の「eラーニングの時間」のねらいは、基礎学力の充実と学習の習慣化です。各自のペースで基礎的な内容を学ぶという日々の積み重ねを通して、既習事項をしっかりと定着させ、勉強のサイクルを掴める生徒を育てたいと考えています。

学校創立時からeラーニングを積極的に取り入れる方針があり、教材を探している中で出会ったのが「eライブラリ」です。使いやすく、生徒にも好評です。今後は、学習結果を評価につなげるなどの工夫もさらに検討したいと考えています。